

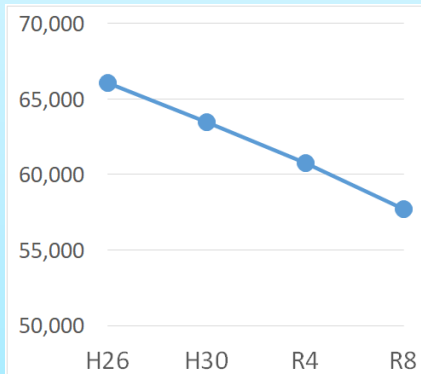
令和 8 年度 市政報告会

未来へつなぐまちづくり
～市民の皆さまとともに～

～人口減少・少子高齢化～

人口

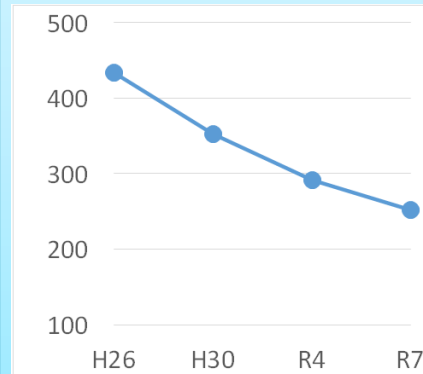
H26 66,069人
 R8 57,714人



※12年間で
8,355人減少

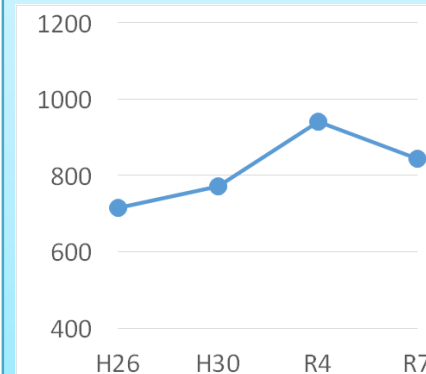
年間出生数

H26 434人
 R7 252人



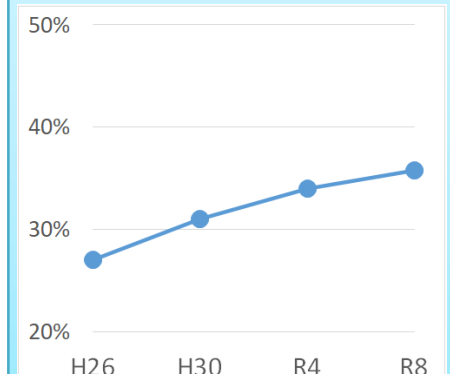
年間死亡数

H26 715人
 R7 844人



高齢化率

H26 27.00%
 R8 35.76%



自然動態(増減)

H26 281人 減少
 ↓
 R7 592人 減少



～橋本市の課題～

1. 農業では、高齢化とともに従事者が減っており、新規就農者をはじめとする人材の確保が必要です。耕作放棄地の増加や鳥獣被害、また温暖化による作物への影響も出ています。新たな販路開拓や、商品に付加価値を付けるなど、所得の向上につながる対策が必要となります。
2. 商工業では、人材確保、後継者の育成や技術の継承、また老朽化した設備への対応などが課題となっています。新商品の開発や新たな販路開拓など、儲かる仕組みづくりが必要となります。
3. 5年、10年後には、さらに人口減少し高齢化が進み、それに伴い行政運営のあり方を考えていく必要があります。地域での移動支援、買い物支援、見守りなどの「支えあい」のニーズが高まってくる中、区・自治会の運営や、公共交通など、実情に応じた検討が必要となります。



～橋本市の課題～

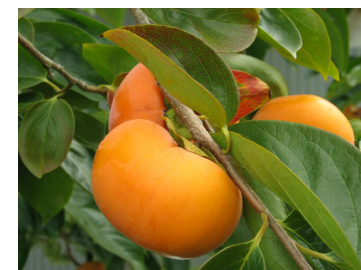
4. 市が管理する道路や橋梁、学校など公共施設の多くが老朽化しており、今後10年間で140億円以上の修繕・整備費用がかかる見込みです。また、上下水道施設における整備には今後10年間で約100億円がかかる見込みです。
5. 広域ごみ処理場(ゴミ焼却・リサイクル)、環境管理センター(し尿処理)、伊都消防など、橋本伊都圏内で広域的に運営している公共施設が、同時期に改修などをする必要があります。費用は関係する市町で分担しますが、人口規模により、橋本市の負担が大きくなります。
6. 橋本市民病院を維持し、地域医療を守っていく必要があります。
7. 国や県と連携して補助金を確保しつつ、税収以外での収入の確保も必要です。



未来へつなぐまちづくりのため
市民の皆さまとともに
次の8つの政策を柱に
取り組みを進めます

生産者を支援し、産業振興と地域経済の活性化に努めます

- 農業における生産者支援
 - ・ 柿などの主要農産物のブランド化と販路拡大
 - ・ 農業用施設改良事業の地元負担金の見直し
- 商工業における事業者支援
 - ・ 高野口パイルブランディング事業などの地元産業の支援
 - ・ デジタル地域通貨Hashi-Moの発行による地域経済の活性化
(プレミアム率10%で11月から販売)
- ふるさと応援寄付金の拡充
- シティプロモーション、魅力を伝えるための情報発信



働く場所を確保し、 多様な就労のための環境づくりに努めます

- 企業誘致の推進
 - ・ 協定締結60社 操業社数47社
 - ・ 従業員数2,031名、地元雇用1,183名（R8.6月現在）
- あやの台北部用地の早期完売と第2次事業の検討
- 地元雇用の推進による若者世代などの定住支援
 - ・ 「はしもとで働く人と未来を考えるガイドブック」
- 市内事業者のニーズ把握と課題解決の支援
 - ・ 雇用状況調査
 - ・ 地域雇用活性化協議会の立ち上げ



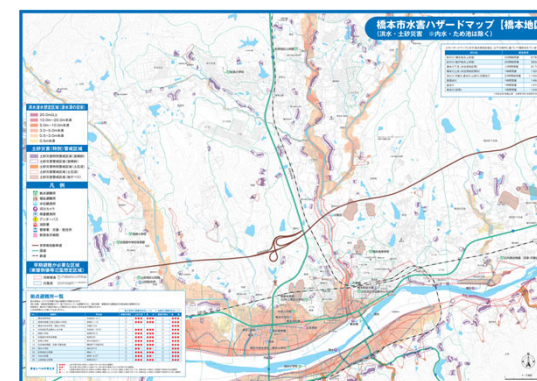
交流拠点の整備を行い、 地域の魅力や資源を最大限に活用します

- 将来に向けての機能的なまちづくり
 - ・ 立地適正化計画を策定（R8年度着手、9年度策定予定）
- 交流人口を増やし地域全体の活力を高める取り組み
 - ・ 橋本駅前広場の整備
 - ・ 高野口駅周辺の活性化、観光振興
 - ・ 紀望の里ウッドパークの整備
 - ・ 旧学文路中学校グラウンドの利活用
 - ・ 恋野地域おこし支援
- 三石台中央公園遊具設置



安全・安心な暮らしと 生活の利便を支える都市基盤を整備します

- 市民生活を支えるインフラ整備のための予算拡充
 - ・ 道路、橋梁、上下水道、ため池等計画的な老朽化対策
- 合併処理浄化槽への転換推進
- 自然災害への備え
 - ・ 自主防災組織の強化、活動支援
 - ・ 水害ハザードマップの刷新
 - ・ 災害備蓄品の整備、避難所受付のデジタル化
- DXによる消防体制の充実、児童への応急手当教育の実施
- 橋本市民病院における医療体制の維持



未来を担う子どもたちのために、 子育て支援をさらに充実します

- 妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援
 - ・すべての妊産婦、子育て世帯・こどもを対象に相談支援を実施
 - ・母子健康手帳アプリ「ほのぼのおやこ手帳」の運用開始
- こども園、保育園、たんぽぽ園への支援
- 「こども誰でも通園制度」の実施（R8.4月～紀見こども園）
- 児童育成支援拠点事業の開始
- 経済的支援の継続（医療費助成・保育料軽減・学校給食費無償化）
- 保健福祉センターの屋内遊戯室を夏季は日曜日も開放（R 8. 7～8 月）
- 子育て情報サイト「はぴもと」や橋本市公式LINEによる情報発信



生活支援体制を向上させ、誰ひとり 取り残さない社会福祉の実現を目指します

- 第2層協議体における「助けあい」の仕組みづくりを支援
- 健康寿命延伸の取り組みの拡充
- 障がい者福祉の推進
- 重層的支援における関係機関との連携
- 誰もが安心して集える居場所づくりの推進
 - ・ 市内14か所の地域食堂、こども食堂
- 女性相談支援窓口の開設による相談体制の強化（R8.6月～）



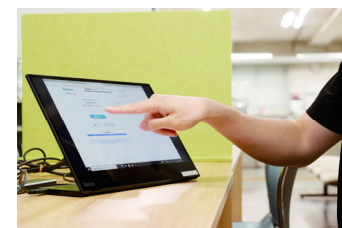
安全で安心な学習環境で 主体的な学びを育みます

- 学校再編計画の計画的な推進
 - ・ 新しい学校づくり推進計画
 - ・ 学校再編準備委員会
 - ・ スクールバス関連事業（乗降車確認システムの導入）
- 高野口中学校の新校舎建設（旧応其中学校跡地への移転）
- 学校施設の継続的な長寿命化対策
- 学童保育所の施設整備の充実
- 多様な学び、学習用端末を活用した持ち帰り学習（ハイブリッド型教育の推進）
- 教育支援センターの充実（訪問やオンラインによる相談体制）
- 非常勤講師等の配置（市独自）



地域に寄り添った 持続可能なまちづくりを推進します

- 地域運営組織の設立推進
- 自律的な地域活動の支援の継続（SDGs交付金、地域づくり活動交付金）
- デジタル社会に向けたDX推進の加速
 - ・ 書かない窓口、行かない窓口の推進（オンライン化）
 - ・ DX人材の育成、デジタル技術を活用した業務改善
- 新庁舎整備（現庁舎敷地での建て替え）
- 市役所開庁時間の変更（午前9：00～午後4：30）



お礼とお願い

本日はご来場ありがとうございました

- 本日の資料のカラー版は市ホームページに公開しています。
- 今後の開催の参考にいたしたく、8月31日（月）までに右の二次元コードからアンケートにご協力をお願いします。紙でも回答いただけますので、近くの市職員にお声がけください。

